

高次脳機能障がい者への就労支援

平成 21 年度の職能科利用者数は、561 名 そのうち高次脳機能障がいの方は、441 名と約 8 割に上ります。今回は、職能科での高次脳機能障がいの方への就労支援についてご紹介いたします。職能科は、病院のリハビリテーション局の一つの部門としてサービスを提供しています。そのため、対象となる方は、受傷(発症)後間もない方から復職や就労を間近に控えた方など幅広く、医学的リハから認知・社会リハ、そして職業リハへと連続的にかつ継続的に支援を行っていることが特徴です。

職能科での具体的な支援内容は段階的に 4 つに分かれます。

職業能力評価 職能科作業テストや浜松式高次脳機能スケール、幕張式ワークサンプル(MWS)簡易版などを活用して作業能力や高次脳機能障がいによる影響を確認して支援計画を作成します。

個別訓練 MWS(訓練版)や PC データなどの作業を通して基本的な作業スキルの確認や習得、障がい認識へのアプローチを行います。

グループ訓練 模擬的な職場環境を設定して高次脳機能障がい者が作業に及ぼす影響を知り、対応方法を身につける、職場環境に必要なソーシャルスキルを身につけることなどを目的に行っています。現在は、名刺製作・販売を行う事務系と名刺ケースの製作や花壇の整備など軽作業を行う実務系の二つの場面があります。

職場内リハビリテーション 職場への復帰や就労に向けたより実践的なプログラムです。リハビリテーションの一環として職場を活用させてもらうことによりさらに障がい認識を深め、スムーズな職業生活への移行を図ることを目的にしています。また、職場側にも障がいの理解を深めてもらうよい機会であり、復職(就労)後の職務内容の検討など準備を進めてもらうという側面もあります。これらは、利用者ご本人への支援ですが、並行してご家族への支援や職場側との調整も行っています。

また、状況によっては地域の福祉資源の活用やジョブコーチの支援が必要なこともあり、関係各機関との連携・調整も重要な業務になっています。

(今野政美)



